

第3回広島工業大学研究室訪問事業

1 日時

平成25年7月9日（火曜日）13時30分から16時30分まで

2 教員、研究内容など

環境学部環境デザイン学科 平田 圭子（ひらた けいこ）准教授



～今、デザインを再考する～

都市の中で人の心の内をより豊かにし、心地よい環境をつくるインテリアデザイン（都市のインテリア）や、大型商業施設が地域の核となるための仕組みのデザインの研究を行っている。

ゼミブランド「HLab→」をつくり、学生と一緒に民家の再生計画や地元商店街のまちづくりプロジェクト（産・学・官・民連携）などの取り組みを展開。

デザインは、対象となるモノの背景を考察し（時間軸）、取り巻く環境に配慮し、点（モノ）・線（時間軸）・面（環境）への波及をイメージしながら考えていくが、3月11日に発生した「東日本大震災」を体験した今、被災地に限らず、デザインは誰に対して何をすべきか立ち止まって再考するときである。もともとデザインとは、人とモノ、人と人、人と環境の関係をより良くつなぎ、生かしていくための一連の創造の枠組みと行為であるが、今は、さらに何をどうつなげるべきか、仕組みをデザインすることが重要である。

3 地元製造企業の取り組み

株式会社ギケン（廿日市市津田）

商品企画から工業デザイン、試作、小ロット生産までをワンストップで提供。

主力の自動車用パーツのほか、治療用ベッドの滑落防止用ベルトアタッチメント、腰痛改善に効果がある姿勢矯正器など福祉・医療・工業製品などの開発をサポート。

常にプラスαの提案を行い、ハートで働くアーティスト&エンジニアを育成している。



倉本杓子工場（廿日市市深江）



天然素材を生かし仕上げの手作業にこだわる。「3次元的な曲線」と「仕上げのテクニック」が特徴。

杓子というモノの自体だけではなく、パッケージに至るまで、そして、木のぬくもりなどモノから発想される内面的なものまでのトータルデザインを伝えていく「文化」を培えるかどうか問われている。

4 参加企業など

- (1) 市内企業16社
- (2) 広島銀行（法人営業部金融サービス室）
- (3) 広島県立宮島工業高等学校
- (4) 独立行政法人中小企業基盤整備機構中国本部
- (5) 大野町商工会
- (6) 佐伯商工会
- (7) 株式会社シーズ総合政策研究所
- (8) 廿日市市



5 参加者の感想など

- ・ 広い意味での“デザイン”を考える事ができ、今後の事業展開に役立ちそう。
- ・ 地元企業の仕事に対する取り組み方が参考になった。
- ・ 良い“デザイン”とは、見た目の良さが一番大切と考えていたが、研究報告を聞いて、見た目だけではなく開発プロセスにおいて最後は心が大切だということを知ることができた。
- ・ 忙しいから“デザイン”までパワーが割けないと感じていたが、やはり実は逆だった。“絵を描く”（事業設計図）ことからきちんとやりたい。
- ・ “デザイン”の必要性を改めて実感した。
- ・ “デザイン”に関して、広く様々な捉え方があることを知ることができた。
- ・ 抽象的なお話だったので、“デザイン”をこう変更すると機能的に改良された、人の捉え方が変わるなどの具体的な話が聞きたかった。
- ・ “デザイン”とは何ぞやなどメンタル面を含めて考え方を学ぶことができた。
- ・ 毎回違った内容で、色々な見方ができるので良い勉強になる。
- ・ 廿日市の企業の方々との情報交換を含めて交流を図ることができた。
- ・ 実際の経験・体験を説明して頂いて分かりやすかった。今後、参考にしたい。
- ・ 今回、初めての参加だったが、デザインの見方が変わった。